

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00812

研究課題名（和文）アジアの近代と「憧れ」の比較史 - 「新しい女性」現象の伝染・潜伏・共振

研究課題名（英文）A Comparative History of Modernity and the Emotion of Akogare in Asia: Contagion, Incubation and Resonance of the 'New Woman' Phenomenon

研究代表者

山口 みどり (YAMAGUCHI, Midori)

大東文化大学・社会学部・教授

研究者番号：00384694

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、前科研を発展させ、「近代」とは「憧れ」という感情の経済価値が高まり「憧れ」の形を戦略的に操作した時代ではないかとする想定のもと、アジア各地で起こった「新しい女性」現象を「憧れ」に注目する比較感情史として研究した。とくに「憧れ」という感情の「伝染」や「潜伏」という観点を織り込むことで、共時的・通時的双方の視点から分析を行った。近代化し国力を高めたいアジアの諸地域において、伝統的価値観に反する「新しい女性」を取り巻くさまざまな「憧れ」は、為政者やエリートによっても模索され、ジェンダー、階級、人種的な上下関係に重ね合わせ操作される「帝国の道具」としても機能したことが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代に特徴的な感情のひとつとして、「憧れ」に注目し、その特徴を分析した。またこれまでの「新しい女性」研究には、共時的に起こった「モダンガール」現象を扱うものが多かったのに対し、本研究では、「憧れ」の「伝染」「潜伏」「共振」という観点を織り込むことで、共時的・通時的双方の視点から研究した。これにより、感情史・ジェンダー史・グローバル史を架橋することを目的として設定した。本研究は19世紀から20世紀半ばにかけてのアジアを中心とした各地を扱う比較歴史研究であったが、本研究の知見は、「推し活」「インフルエンサー」「聖地巡礼」など、現代社会のさまざまな社会現象を理解するうえでも、有用であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study builds on the assumption of previous research that the modern period was a time of increased economic value of the emotion of akogare, or longing, charm, and strategic manipulation of forms of akogare. In this study, a comparative historical study of emotions focused on the concept of akogare, using the 'new woman' phenomenon in Asian countries as a case study. In particular, the incorporation of the perspectives of contagion and latency of the emotion of akogare enabled the analysis of the situation in each region in both a synchronic and diachronic manner. The results revealed that in Asian countries that aimed to modernise and strengthen their national power, the various akogares surrounding the new women that contradicted traditional values were manipulated by politicians and elites. These akogares were superimposed on existing gender, class and racial hierarchies and functioned as 'imperial tools' to be manipulated.

研究分野：ジェンダー史、社会史

キーワード：ジェンダー 憧れ 感情史 新しい女性 アジア 近代 移動 帝国

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本課題は、2016年度～2018年度科学研究費基盤研究(C)「新しい女性」とアジアの近代情動にみる思想・価値観の形成過程の比較研究(課題番号16K02003)から発展したものである。前科研では、19世紀末に西洋で起こった「新しい女性」現象に触発され、20世紀初頭のアジア諸地域で「近代的で自立した存在」としての「新しい女性」像が出現し変容を遂げた状況を、像の形成過程で見られた「憧れ」という感情に着目し、7地域を比較する感情史として分析した。当時西洋には、社会の序列を女性の自由の度合いで測る考え方があり、東洋に対する優越性、あるいは西洋諸国の中でもその序列をこれによって確認できるという見方が存在した。このため、近代化し国力を高めたいアジアの地域において、伝統的価値観に反する「新しい女性」とは望ましさと疎ましきの入り混じった複雑かつ特別な意味を持つこととなる。「新しい女性」や「モダンガール」を対象とした研究においては、当時の現実の女性たちと乖離した「像」に過ぎないことも指摘されていた。せめぎ合う価値観の狭間にある「新しい女性」たちの姿は、為政者やエリートによっても模索され、プロパガンダの一環として利用され、また大衆の支持やバッシングによっても影響を受けることとなる。本科研ではそうしたなかでの「憧れ」に焦点を当て感情史として研究することにしたのである。

「感情(情動)史」は、アナール派等初期の文化史研究にすでに見られたが、ここ20年で急速に発展を遂げた研究分野である。感情と広告、感情と権力、感情と宗教など、近年ではさまざまなプロジェクトが立ち上がり、その影響力から「感情論的転回(emotional turn)」とまで呼ばれる状況が生じている。初期の感情史研究においては、「近代」とは理性を重んじ感情が管理・統制された時代であったと理解されていた。それに対し、近年の新しい文化史・18世紀研究・ヴィクトリア時代研究は、近代に特有/特徴的な感情に注目している。例えばリン・ハントは18世紀における「共感」という感情の飛躍的な発展に目を向けた。感情史は、「下からのグローバル史」へのアプローチ方法としても関心が集まっている。

海外研究協力者も含めて関心や疑問を共有し議論するなかで、研究チームは、「憧れ」という感情を近代に特徴的な感情として捉えることができるのではないかと考えるに至った。「憧れ」は少なくとも英語や中国語、韓国語、アラビア語、インドネシア語には完全に置き換えられる単語が見当たらず、その点でも、海外の共同研究者からは共同研究の継続に強い関心が示された。例えば2017年来日したパメラ・コックス(エセックス大学)は、「憧れ」を「思い焦がれる気持ち、夢を抱く経験、魅せられたい、魅せたいという願望 a sense of longing, an experience of dreaming or the desire to be charmed and to be charming」と定義している。

### 2. 研究の目的

本研究は、近代化の過程にある19世紀から20世紀の社会で拡大した感情として、「憧れ」に注目した。首尾よく「憧れ」させることができれば、人びとは自ら進んで、労をいとわず、さらには私費を投じてでも動こうとする。産業化による中間層の拡大やマスメディア、広告業の発達に特徴づけられる「近代」とは、「憧れ」の経済価値が高まり、「憧れ」の形を戦略的に操作した時代ともいえるのではないか。本科研では、「憧れ」を、空間的・社会的移動機会が増大した近代に特徴的な感情の一つと捉え、「新しい女性」現象を通し、「憧れ」がアジアの諸地域で築いた近代の諸相を比較しつつ描き出すこと、ひいては「憧れ」が構築した「近代」の姿を論じる

こと 「新しい女性」像と現実の女性たち、あるいは「像」の構築とをつなぐこと またこれにより、感情史・ジェンダー史・グローバル史を架橋することを目的として設定した。

### 3. 研究の方法

#### (1) 比較研究

同じく近代に特徴的な感情として「痛み」に注目した伊東剛史・後藤はる美編『痛みと感情のイギリス史』(2017)がイギリス史を遡ってその変遷を論じたのに対し、本科研は、伝播する感情を扱う国際比較歴史研究として「下からのグローバル史」研究を試みた。メンバーの担当地域は以下の通りである。

山口みどり(研究代表者): イギリス アジア

後藤絵美(研究分担者): エジプト フランス・イギリス

野中葉(研究分担者): オランダ領東インド オランダ

高媛(研究分担者): 満洲 日本

李美淑(研究分担者): 朝鮮 日本

このほか、香港大学准教授(後東京理科大学教授)の中野嘉子(日本 アメリカ)、独立研究者宇野陽子(トルコ)、ケンブリッジ大学教授ルーシー・デラップ(英領ビルマ)、エセックス大学教授のパメラ・コックス(イギリス)が研究協力者として研究に加わった。

#### (2) 共時的・通時的双方の視点からの研究

これまでの「新しい女性」研究には、共時的に起こった「モダンガール」現象を扱うものが多かった。それに対し、本研究では、リンダ・コリーが「憲法制定の機運」の急速な広がりに対して用いた「伝染」という概念も援用し、「憧れ」の「伝染」「潜伏」「共振」という観点を織り込むことで、「潜伏」期間を経た憧れの開花を含み、共時的・通時的双方の視点から研究した。

### 4. 研究成果

全体の成果としては、2023年6月に山口みどり・中野嘉子共編『憧れの感情史 アジアの近代と 新しい女性』(作品社)を上梓した。各章のタイトルと執筆者は以下の通りである:

序章 《憧れ》が動かす近代 新しい女性現象をめぐる感情のダイナミズム 山口みどり

第1章 アジアに見せたい、アジアを魅せたい 「新しい女性」とイギリス国教会の宣教戦略 山口みどり

第2章 ヴェールを外すこと 《憧れ》にうつるエジプトの近代 後藤絵美

第3章 《憧れ》を喚起し醸成する装置 オランダ領東インド初の現地語女性誌『プトリ・ヒンディア』 野中葉

第4章 ビルマの「新しい女性」とコロニアルな視覚文化 破壊的近代性とエキゾチックな原始性の魅惑と動揺 ルーシー・デラップ

第5章 在日本朝鮮人女子留学生たちの秘められた《憧れ》 雑誌『女子界』と金瑪利亞の個人史を中心に 李美淑

第6章 「満洲」というファンタジーの創出と空転 宝塚少女歌劇『満洲より北支へ』(一九三八年) 高媛

第7章 「国父」家族のスキャンダル アタテュルクの養女ウルキュにみる《憧れ》とその反転 宇野陽子

- 第8章 戦後日本の“スチュワーデス” アメリカ人に習ったモダンと着物で背負ったジャパン 中野嘉子
- 第9章 ショップガール イギリスと諸外国におけるモダニティと「新しい女性」 パメラ・コックス

また、2024年2月には、海外研究協力者のルーシー・デラップ氏の来日に合わせ、国際シンポジウム形式のブックイベント「『フェミニズムズ』×『憧れの感情史』 ‘新しい女性たち’ をめぐる夢と憧れ」を以下の形で開催した：

日時：2024年2月21日（水）14時～17時半

場所：東京理科大学 富士見校舎&ZOOM

山口みどり「《憧れ》が動かす近代」（大東文化大学）

Lucy Delap 'Feminist Dreams'（ケンブリッジ大学）

後藤絵美「《憧れ》にうつるエジプトの近代」（東京外国語大学）

高媛「『満洲』というファンタジーの創出と空転」（駒沢大学）

コメント1 井野瀬久美恵（甲南大学）

コメント2 長沢栄治（東京大学名誉教授）

司会 中野嘉子（東京理科大学）

共同研究から得られた主な知見は以下の通りである。

#### 「憧れ」とジェンダー

「憧れ」という感情は、理想とする対象との心理的な上下関係を前提とするものであり、「憧れ」を持つ側が従位となる。従位性を内包する「憧れ」は、「欲望」とは違い、女性が持って差し支えないジェンダー性を持つともいえる。「欲望」に比べ、商業、教育、宗教、出版、政治の場で表に出して扱いやすい「きれい」なニュアンスの感情であるため、「夢」や「憧れ」は、広告、プロパガンダ、イデオロギー、カリスマ、ファッション、スポーツ、エンターテインメント、芸術、王室、宗教行事、ブランドといった形で、感情政治や感情経済の装置を機能させやすい。こうした世界は、仕事の一環として感情のコントロールを求める感情労働や、外見や振る舞いの美しさを求める美的労働とも深くかかわる世界であり、例えば「美しさ」にも経済価値を認めるといった点で、一層女性と親和性をもっていたともいえる。

#### 帝国の道具としての「憧れ」

上下関係を内包する「憧れ」という感情は、しばしばジェンダー、階級、人種的な上下関係に重ね合わせて操作された。帝国支配が強まる近代においては、とくにソフトな帝国支配の道具となっていた。ただしその関係は、必ずしも一方通行ではなく、「憧れられ続け」る側の努力を要するものでもあったことも指摘された。

#### 「憧れ」の「潜伏」

占領下・植民地支配下にある人びとの「憧れ」がどのように表現されたか、どう読み解くかは、共同研究のなかでクローズアップされた論点であった。

「憧れ」という感情は、対象となる「理想」との距離感ゆえの「逃げ」「甘さ」を含みうる。そうした緩やかな面を持つからこそ、長期に及ぶ「潜伏」が可能であり、条件が整ったときに豊

かに花を開かせる可能性も秘めた感情だと分析できる。

## 各自の研究

山口みどりは、帝国主義期におけるイングランド国教会の海外宣教政策を扱った。山口は、異教徒のみならず本国の出資者、奉仕者、そして宣教師志願者を惹きつけるため、さまざまなレベルで行われた「憧れ」の操作を分析した。海外伝道が称揚されるなか、神に仕えることに憧れるエリート女性のなかに、本国での職をなげうち、私費を投じて、海外宣教を志願する「憧れのエコノミー」が成立していたと主張した。このほか山口は、保守的少女小説家シャーロット・ヤングのファン層に起こった女性参政権をめぐる議論についての研究も行った。

後藤絵美は、イギリスの勢力下のエジプトで、女性解放の象徴的存在といわれたフダー・シャアラウィー（1879～1947）に着目した。後藤はフダーの回想録や、外国人旅行者の見聞記、エジプト人男女知識人らの著述から、当時の女性たちが抱いたであろう「ヴェールを外すこと」への憧れと葛藤を追った。そのうえで、フダーらのヴェールからの解放が、「ヨーロッパへの素朴な憧れの時代」が過ぎ去った後に起こったことに着目し、「ヴェールを外すこと」への憧れを西洋とのつながりにのみ還元する通説に疑問を呈した。後藤は、このほかにアラブ地域の近代における「フェミニズムの開花」（黎明期）についての研究も行った。

野中葉は、20世紀初頭のオランダ領東インド（現インドネシア）で発行された初の現地語女性誌『プトリ・ヒンディア』を分析対象とした。同誌の編集に当たったのは異なる人種の属性を持つエリート女性たち　ヨーロッパ人女性、現地貴族層の女性、そして混血女性たち　であった。西洋式教育の受益者である彼女たちは、それぞれ異なった思惑から、ヨーロッパ的近代を「理想」として描き「西洋」への憧れを醸成した。野中は雑誌という「装置」によって、その理想像が現地民エリート層の女性読者へと伝播したとした。野中は、このほかにインドネシアにおけるムスリマの衣服、化粧品、女性の宗教実践に着目した研究を行った。

李美淑は、朝鮮の植民地化初期（1910～1920年代）在日本朝鮮人女子留学生たちの理想や願望といった「憧れ」と植民地現実という落差との「苦悩」について、朝鮮人女子留学生が編集した雑誌『女子界』と「東京女子留学生親睦会」会長であった金瑪利亞に注目し分析した。コロニアリズムとジェンダーというアングルから、朝鮮人女子留学生たちの「新しい女性像」をめぐる議論と実践を読み解くことで、植民地を生きた人びとの語ることのできなかった「感情」の側面に目を向けた。李はこのほかに日韓連帯運動と画家富山妙子のメディア実践を研究した。

高媛は、宝塚少女歌劇のグランド・レビュー『満洲より北支へ』（1938年初演）から、満洲への作られた憧れを追った。高は、女性の満洲移民を推進する国策に基づき、「ロマンチックな甘い夢物語を提供する『乙女の憧れの国』・宝塚少女歌劇」と「建国の理想や冒険心など『男のロマン』をかきたてる帝国日本の非公式領土・満洲」とがこの作品において交差したと捉え、脚本やファンの感想を手がかりに、同作品のなかで、「満洲」というファンタジーがいかに創出され、また空転していたかを考察した。

新語・流行語大賞の候補にもノミネートされた2023年WBC決勝戦前の大谷翔平選手の言葉「憧れるのをやめましょう」は、本研究が示した「憧れ」がもたらす原動力や「憧れ」に潜む上下関係の好例であった。本研究は19世紀から20世紀半ばにかけてのアジアを中心とした各地を扱う比較歴史研究であったが、本研究の知見は、「推し活」「インフルエンサー」「聖地巡礼」など、現代社会のさまざまな社会現象を理解するうえでも、有用であると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山口みどり	4. 巻 新91
2. 論文標題 「アラクニーの娘たち：『マンスリー・バケット』誌の参政権論争にみる参政権意識の「大衆化」」特集「大衆化」の世界史：包摂と排除のはざままで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史潮	6. 最初と最後の頁 45-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李美淑	4. 巻 1028
2. 論文標題 「境界を越える連帯と再帰的民主主義 「日韓連帯運動」と画家・富山妙子のメディア実践を中心に」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 132-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yo Nonaka	4. 巻 49
2. 論文標題 Practising Sunnah for reward of heaven in the afterlife	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Indonesia and the Malay World	6. 最初と最後の頁 429-447
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13639811.2021.1952018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李美淑	4. 巻 21
2. 論文標題 韓国の民主化運動と「行動する画家」富山妙子：1970～80年代の境界を越える連帯と芸術運動を中心に（韓国語）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 民主主義と人権	6. 最初と最後の頁 35-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 山口みどり
2. 発表標題 「帝国の教会」と女性宣教師 「ミッションボックス」が探る支援の形
3. 学会等名 大東文化大学100周年記念シンポジウム1 「帝国」を再考する -コンタクトゾーンの文化とジェンダー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 李美淑
2. 発表標題 境界を越える連帯と再帰的民主主義 「日韓連帯運動」と画家・富山妙子のメディア実践を中心に
3. 学会等名 歴史学研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Emi Goto
2. 発表標題 Qasim Amin and the roles of male intellectuals in the development of feminism in Egypt
3. 学会等名 Workshop: Muslim Feminism Thoughts in the Early 20th Century: Qasim Amin and Tahar Haddad” : Research Project on Islam and Gender: Towards a Comprehensive Discussion (20H00085) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yo Nonaka
2. 発表標題 The Halal Cosmetics Boom in the Modern Muslim Society of Indonesia
3. 学会等名 presented at the panel “Religiosity in Modern spaces. Perspectives from Asia and Africa: Religion and modernity” in the 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (online)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 李美淑
2. 発表標題 画家・富山妙子の越境する作品と共振 アジアキリスト教ネットワークを中心に
3. 学会等名 アジアキリスト教交流史研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 宮代康丈、山本薫、今井むつみ、大堀壽夫、國枝孝弘、藤田護、高木丈也、中浜優子、杉原由美、白頭宏美、藁谷郁美、鄭浩瀾、野中葉、西川葉澄、大木聖子、杉本なおみ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 言語文化とコミュニケーション	

1. 著者名 神保謙、廣瀬陽子、加茂具樹、和田龍磨、土屋大洋、鶴岡路人、中山俊宏、國枝美佳、田島英一、鄭浩瀾、野中葉、ヴ、レ・タオ・チ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 流動する世界秩序とグローバルガバナンス	

1. 著者名 長沢栄治、岡真理、後藤絵美、鷹木恵子、松尾有里子、服部美奈、山崎和美、藤元優子、鈴木珠里、松永典子、山口みどり、千代崎未央、野中葉、酒井啓子、新郷啓子、中島由佳利、帯谷知可、高橋圭、松本ますみ、須永恵美子、藤元優子、見原礼子、木原悠、岡井宏文	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 記憶と記録にみる女性たちと百年	



1. 著者名 八木久美子（編集委員長）、後藤絵美（編集委員・執筆者）、野中葉（執筆者） ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 748
3. 書名 イスラーム文化事典	

1. 著者名 久志本裕子、野中葉（編著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 東南アジアのイスラームを知るための64章	

1. 著者名 Emi Goto & Chika Obiya eds. Yo Nonaka et. al.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ILCAA	5. 総ページ数 215
3. 書名 Created and Contested: Norms, Traditions, and Values in Contemporary Asian Fashion	

1. 著者名 蘆田裕史、藤嶋陽子、宮脇千絵、赤阪辰太郎、朝倉三枝、有國明弘、五十棲亘、小澤京子、落合雪野、香室結美、川崎和也、菊田琢也、北村匡平、高馬京子、西條玲奈、鈴木彩希、関根麻里恵、高橋香苗、田中里尚、田本はる菜、中谷文美、難波優輝、新實五穂、野中葉、平田英子、平芳裕子、水野大二郎、南出和余、村上由鶴、劉芳洲	4. 発行年 2022年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 292
3. 書名 クリティカル・ワード ファッションスタディーズ	

1. 著者名 岡真理編（中東現代文学研究会）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中東現代文学研究会	5. 総ページ数 391
3. 書名 中東現代文学選2021	

1. 著者名 編著：大野 光明、小杉 亮子、松井 隆志、執筆：李 美淑 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 240
3. 書名 メディアがひらく運動史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	後藤 絵美  (GOTO Emi)  (10633050)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・助教   (12603)	
研究分担者	高 媛  (KO En)  (20453566)	駒澤大学・グローバル・メディア・スタディーズ学部・教授   (32617)	
研究分担者	野中 葉  (NONAKA Yo)  (70648691)	慶應義塾大学・総合政策学部（藤沢）・准教授   (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	李 美淑 (LEE Misook)  (40767711)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・准教授   (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中野 嘉子 (NAKANO Yoshiko)		
研究協力者	宇野 陽子 (UNO Yoko)		
研究協力者	デラップ ルーシー (DELAP Lucy)		
研究協力者	コックス パメラ (COX Pamela)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	香港大学			
英国	エセックス大学	ケンブリッジ大学		